

Title	巨大な自然を相手に押し流されないで
Author(s)	斉藤, 洋
Citation	makoto. 1979, 26, p. 10-12
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86130
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巨大な自然を相手に 押し流されないで

豐中市下水道部

作業課長

ことは、 され、 執行する時間的な猶予がとれな 常である。 本当の解決を立てていくのが涌 問題の一 いからであろうが、とりあえず りお座なりな部分も多い。 検索業務が概して遅れがちであ 研究機関でないので、 政は、 正しい解決策とは 充分に研究を重ねてから 時解決をはかりながら、 住民側から問題が提起 執行機関であって検 事業の この

の提起をされる事が多く、 決策を考えとして組み立て問題 民の指向は、 とが予想できる。 わされるという傾向の強まるこ に対して住民の考え方に振りま だが、最近の行政に対する住 かれて行くであろう行政 住民の側から一定の解 行政に対して無関心 行政の対応の鈍さ ます

(2) くことである。 力を蓄え、 τ 特に、 はならない。 結果を恐れないて 行政の場合、

上で何度も軌道修正をはかり正 きをふんで実施し、 の計上を認めて貰ってまた手続 けて検索の必要性を充分徹底さ せ、手続きをふんで検索の予算 く事業を想定し、その事業にむ は しく予知するのである。 場合も多い。 反対もあり、 これだけの順序や手続き中で 理解を得られな 結果をみた

うになる場合もある。 ŧ ままよ、

住民参加がますます計られるこ

になることを望むのではなくて、

からの傾向に対して、 行政

先きの解決に目を奪われてい

このために行政の中に予知 住民から問題提起を

待たず事前に施策を実施してい

でも中々難儀なことである。 簡単に予知すればいいと云 事実に基

給料に変りなしとつい挫けそ やってもやらなくて

> 斉 藤

結果が迫ってきて押しつぶされ ないのである。 したくなる衝動をおさえ問題を るときの何倍も疲労し、 そうになる場合だってある。 一つ一つ片付けて行かねばなら こんな時 予測した結果とは全く違っ 順調に進行してい 投げ出 た

視して受けとめることである。 重 (3) を恐れないことで、 直線に進むことである。 この中で大切なことは、 行 そこで、 ħ. 批判はかわさないで 政には金がかかる。 潜在意識にこだわらず正 解決策を見出したら 結果を積み 結果

り出した基礎資料を添付し要求 変な労力とねばりで科学的に割 ことの方が多い。 兎にも角にも、 の影響は受ける。 |象的な予算の配分を受ける 業を進める上で当然財源的 「この程度」 解決の方に 折角、 などとい 大

> を確めることである。 かって猪突猛進である。 そして、

いるが、 違った場合、躊躇することなく れた時点で一時的な解決をして 決に対する考え方に差違が生じ 軌道修正をはかるべきで、この これとは別に、 合 地域住民との間に問題解 本当の解決策と軌道が 問題が提起さ

洋

批判を受けることがある。 批判は、 解決策に対する成果 かわしてはならない。 (4)

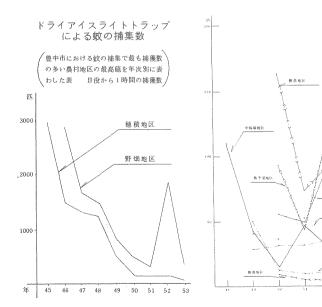
ある。

ることになる。 批判ばかりが姿をかえて出て来 を埋めることにはならなくっ 見を押し付けていたのでは差違 ことで、 意見を充分交し合って理解する 差違を埋めるもの 正しいからといって意 は お 互

豊中市においては、 住民に理解を求めて

で実際に一年の計画を立てて実 そ昆業務

黄色地区



差違を埋める努力をすべきで

ねずみを少々駆除している程度 施している事業は、 である。 蚊 の駆除と

域の二カ所で連日無捕獲日が続 ているが(別図参照)、 や種類によって一定の資料とし 月末から九月中旬まで毎週月曜 も多額の予算を割いている。 ブを仕掛け捕獲し、 めるドライアイスライトトラッ エカ系の蚊をドライアイスで集 み、これらの事業効果の検索に 金曜日の日没から一時間、 現在では、 蚊の駆除は、多角的に取り 市内一〇ヵ所に六 その捕獲数 住民地 組

満であるが、政治的な圧力もあ に特別な薬剤散布の申入れがあ 別に、毎年一回、 数年前まで、 って実施させられていた。 昭和五一年もまた申入れがあ この地域の地域団体役員から われわれとしては非常に不 定期的に駆除とは 定期駆除以外

講演の夕べ」を主催して頂いた。 に対する意見を付け加え理解を け方針を説き、将来の薬害問題 を訪問し、 盛会であったし、 私等はガマンしきれず、 団体活動として「映画と 検索の結果をつきつ 私達の対策 団

> 現在、「ねずみ・害虫駆除推進 住民組織の組織再編成を実行し 特別な散布もやらなくなった。 ここ二・三年、苦情も減ったし に対する住民の理解も深まり、 全市的にも昭和五二年度から、

地区」とし

1

資料の配付

- 3 (2) 調査の協力 勉強会の開催
- 4 樹立 地域の適正な駆除計画

現在まで五〇数回の勉強会に成 ②では、各地区に呼びかけ、 ①では、そ昆通信「コントロ ル」という新聞を年四回発行。 という四つの活動をお願

る地域がある。

ਣੇ

防虫網網戸がはずされてい

件実施。 ていないが、ゴキブリ調査を二 ③は、まだ充分消化活用され

は、

すすめている。 を細かく説明し理解を得るよう き互いに話しあい、 た駆除計画に画一的な駆除を改 ④では、 地域から住民の声を多く聴 各地域の実情に応じ 役所の方針

充分反映しているとは考えない。 二七六団体、七〇、八八一世帯 で地域の考え方や住民の意見が また、 かし、全体の組織団体数は 全市世帯数の五割強し

位

シ

12

7

ij

168

件

付

位

-7

ス

ij

カ

117

件

/件数

総

数

1,802

件

現状は

だの感がある。 ように減少の傾向にある。 か組織されていないのでまだま 事実、 蚊に対する苦情は次の

昭	昭	昭	昭	
和	和	和	和	
53	52	51	50	
年	年	年	年	
56	82	92	172	
件	件	件	件	

(6)

実情は

都合のいいように解釈し自己

己満足している面もある。 理解を得ている結果と考え、

アリ、 くなりつつある。 で定着し、最近は、毛虫、シロ 最近五年間の苦情ワー から 蜂などに対する苦情が多 苦情は、 年間五五〇件弱 スト 10

で

、あり、

月

別の苦情数順位

は

蚊に対する苦情を追跡してみる 満足している反面、昨年七月の

3 位 2 位 害虫 位 (苦情 (5年間 ワル スト10 蝰 蚊 虫 440 566 169 の集計 件 件 件 (7%) (9%) (9%) (24%) (31%)

> A 7別順 位 5 年間

年 昭 1月までの害虫苦情受 和 位 位 位 位 位 位 49 年 6 q 8月 月 月 4 月 月 月 月 から昭 7 275 330 172 283 370 件 件 件 件 件 件

8 位 6 位 仗 1 7 ij -47 85 64 件 件 件

10 位 妏 位 Z Ä カ キブ L, ŋ シ ... 43 20 26 件 件 件

談を堀りおこし、

住民の信頼と

自

なか」の特集や掲載を進め、

供や出演をはかり、広報「とよ

テレビに積極的に資料の提

このことは、商業新聞、

ラジ

であり、

減少していない。

ントロールや勉強会で要求や相

現地調査の結果 蚊に関する苦情件数21件 7月中に申し出のあった

公共的生息源 公共的発生源 草むらなど 水路など 6 件 2 件 4 件

(15%)(16%)(18%)(20%)

空 バケツの放置 空カンの放置 タイヤの放置 所 家 2 件 2 件 2 件 2 件 4 件

和

最低

人の敷地内

件

植

鉢

1

チャ 木

放置

2 件

古 井 戸 計 16件 件

※苦情件数21件で結果件数 22件は、 ヤ放置が同じ申出件数 路と、個人敷地内のタイ 公共発生源の水

までは、

いる、少しでも蚊を少くして住 まだまだ、 こんな結果である。 重複していたため、 われわれの考えて

ることが行き届かない。 み良い環境をつくろうとしてい

から駆除に至る仕事である。 に二〇数種にのぼる昆虫の生態 蚊だけでもこんな状態で、 他

んだ検体

最後に

よう。

機会があ

私等は、

住民

8(06) 七二四−○五三三

(代)

六番三号

防疫資材部

東大阪市中小阪五丁目

○乾燥まむし抗毒素

乾燥破傷風抗毒素

???\$

クチン払下品)

保管場所

○ガスエソ抗毒素(国

有

しております。

おり血清(治療剤)を常備

協会事業部では次のと

独創

降一一月まで苦情が集中し即日 ロアリと蚊がはじまる。 適正な駆除、 翌日処理に奔走するのである。 毛虫とシロアリ、五月には、 其の他、 三月にはユスリカ、 陈、時には、蛇や鼬ま Ses 薬剤の安全性問題、 四月には 六月以 シ

ゴキブリの飼育である。 薬の検査、タップミノウの飼育 その上、蚊の捕獲テストや新 ねずみの駆除

駆除は一一月から三月にかけ 実施 ねずみの駆除や越冬成虫 山蚊の

> 応の報告を受けています。 考えているし、公衛研に送り込 まることにより、捕獲ベースが 上部に記載してある事業がはじ で注目して頂きたいのは、 果は、下表のとおりで、 仕掛ける事業をはじめたその結 ンホール内にブロックベイトを ラップ)の貸し出しや、 器具(金網ガゴ・シャーマント 除の指導だけで来たが、其の後 期待できないので、 段づつ落ちていることです。 豊中市におけるねずみの駆除 住民の協力なしには効果が 殺そ剤の無料配付と駆 (ねずみ) から薬物反 これを事業の成果と 昭和四八年 この実 下水マ 表の 持って、 はかり、 面白いし、 立に希望をも よい環境の確 とともに住み 本当の解決を 性を発揮し、 よって自信を かめることに いことに驚く 重ねる程奥深 検索に検索を 進める上で はならない。 き立てなくて こそ闘志をか って進みまし この事業を それだけ

相手に、 ぶされそうになる。 ていただこうとする仕事です。 環境を片隅の方にでもつくらせ もない巨大な力をもつ生ものを の仕事は、 れているが、担当するわれわれ とと一行で市条例規集に規定さ そ族・昆虫の駆除に関するこ ない対策にともすれば押しつ いくらやっても遅々として進 人の独善的な住み良い 大自然というとてつ

紹介すること

体的な内容を ば、事業の具

を約束します。

で相談が飛び込み、三〇名が息

巨大なものに対峙しているから 逆に考えれば、とてつもない

> 八分の一に減少したものと思われる。 豊中におけるドブネズミの生息数は、 捕獲したねずみの匹数から推定して、

下水道におけるねずみ捕獲割合と市の駆除対策 ドブネズミ用殺そ剤増量配布(3g) % ハツカネズミ用殺そ剤配布 15 下水管内直接駆除ワルファリンプロックベイト 捕そ器具貸し出し本格化 5 51 10 52 10 53 48/10 50 49/10 年月 45 46 10 47 10

> のみ。 ます。 異例の暖冬、しかも降雨量が 町で撮影したものです。 着本阪南所長が、 を脅かす事例の末発生を祈る ★本冬は、 ★表紙の〃菜の花 今はただ、私等の生活 今夏の渇水も心配され 一般の予想に反し 編集後記 和泉市桑原 の写真は

お礼申し上げます。 き有難うございました。 多忙中にもかかわらず、 ★東大阪市、 為に貴重な時間をさいて戴 斉藤先生共に年度末のご Ш 口先生、 (児玉) 本紙 厚く

お

知 6

t